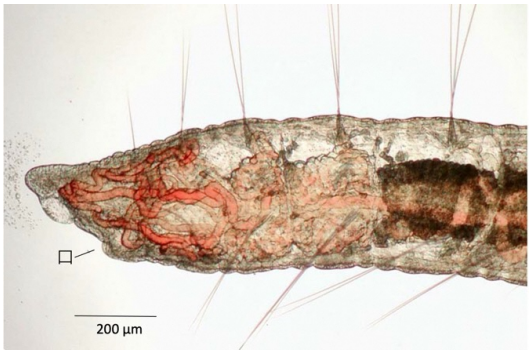
＜生き物紹介＞

だんぶり池で名付けられた“ミズユキイトミミズ”

　だんぶり池で見つかった水生ミミズの一種が新種とわかり，2024年10月に動物分類学の学術誌で公表されました．ミズミミズ科イトミミズ亜科の*Haber subnivalis*という種類です．種小名の*subnivalis*は雪の下という意味で，春先に積雪の最下層にできるシャーベット状の雪で見つかったことに由来します．和名はミズユキイトミミズです．だんぶり池以外では知られていません．*Haber* 属はこれまで北半球の広い地域から10種が知られています．ミズユキイトミミズは，このうち，シベリアのバイカル湖に生息する*Haber vetus*に形態的特徴が似ており，日本と極東ロシアの淡水動物の強い類縁関係を示す一例だと考えられています．

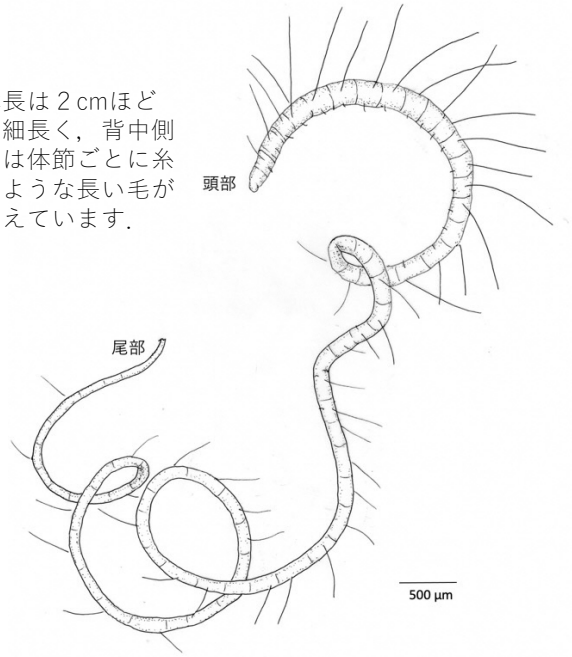
Ohtaka A (2024) Three new tubificine species (Annelida: Clitellata: Naididae) from Japan. Zootaxa 5529: 186−200.

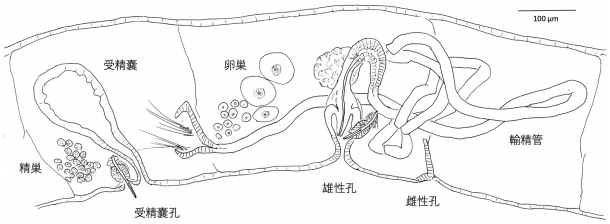
春先に，積雪の下にできるシャーベット状の”アカシボ雪”で発見されました．雪が赤褐色になるのは，鉄細菌の働きでできた酸化鉄の粒子をたくさん含んでいるからです．



体壁はほとんど透明で，体内の入り組んだ血管が赤く透けて見えます．

体長は２cmほどで細長く，背中側には体節ごとに糸のような長い毛が生えています．





雌雄同体で，雄の生殖器官と雌の生殖器官をあわせ持っています．長く太い輸精管が特徴的です．

記載に使った“タイプ標本”は 国立科学博物館に保管されています．

文責 大高明史（弘前市）
2024年11月23日